

奈良市民憲章

奈良は日本のふるさと、美しい自然とすぐれた文化遺産を守り、古都に住むものにふさわしい自覚と誇りに生きよう。
奈良は未来をひらくまち。青少年は健康で、はつらつと、正しく強い人間になりましょう。
奈良は善意のまち。みんなのしあわせのために、おたがいに助けあいましょう。
奈良は清濁で平和なまち。旅行者にはあたたかく親切に接しましょう。
奈良はのびゆくまち。市民の創意で、伝統と調和のとれた新しい住みよいまちづくりをしましょう。

奈良市民だより

No. 441

市民のうごき

5月15日現在()内前月比増
人口 294,036人(1,381)
男 142,732 (527)
女 151,304 (854)
世帯数 93,650 (818)

早起きの市民一万四千五百人で埋まった大会会場

早起き実践者に鎌田市長からごろうさん賞を贈る



奈良市ごろうさん・早寝早起き運動実践推進大会が六月一日午前八時三十分から市内法蓮町鴻ノ池、市中央体育館で市民一万四千五百人が参加して盛大に開かれました。この大会は、人生の基本で

盛大に早寝早起き運動実践推進大会

第11回

早朝実践でやすらぎの道を清掃するご老人たち



雨にもめげず
早朝^{6時}から実践へ
43団体・5,000人繰り出す

健康と友情と奉仕の心に満ちあふれたまちづくりを目指し、市民運動として推進、実践する総意をさらに盛り上げるための大会として毎年開いており、ことしで十一回目。市中央体育館での推進大会が先立って、早朝実践大会がこの日午前六時(早い団体では五時)から市内各地で催され、四十三団体・五千人が参加し、早起きの実践活動を展開しました。ちょうどこの時間帯はあいにくの降雨で、晴天なら百三十二団体・一万三千人が大挙参加するはずでしたが、屋外での実践活動は残念ながらほとんどがやむなか中止。それでも雨の上がるのを待ってお年寄りによるや

すらぎの道清掃隊がクワ出しのをはじめ、各公民館の早朝教室の開講、青年による福祉施設訪問や公共施設の清掃、剣道・柔道の早朝稽古など、予定通り全市内各所でそれぞれの早朝実践活動を展開しました。

推進大会に
一四五〇〇人
推進大会は午前八時三十分から市中央体育館で市民一万四千五百人が参加して開かれました。

早起きの大会とあって集まる人もさすがに早く、一番乗りは午前四時二十分。開会のころは早朝からの雨も上がって、絶好の大会日和となり、時間とともに参加者は続々とつめかけ、八時すぎには会場は超満員。
そのころ、市中パレードを終わったボーイスカウト・ガールスカウトの隊員千二百人が会場に到着、各団ごとに大会本部・鎌田市長の視察を受けて入場し、大会を開幕。正面壇上には鎌田市長、坂本市議会副議長はじめ「ごろうさん賞」受賞者が着席する中をまず北尾光二同運動副部長が開会を宣言。ついで鎌田市長が「ごろうさん賞」にあいさつしました。
「日曜日の早朝から奉仕活動や早起き大会にこんなにくさん参加していただく早起きのまちは全国どこにもありません。ありがたいことです。人生での幸せの根本は奉仕であります。自分だけ幸せになれる人生はありません。他人を幸せにしようとするとき自分も救われ幸せになります。そういう考え方のものとこの運動を市民みなさんご協力をお願いさせていただきます。この奈良を真に幸せな本場の喜びを感じる

まことにしたいと願っています。子々孫々に伝えて展開してまいりたい。早起きする人に悪影響はありません。早起きは口で言うものではありません。身体で実践するものです。お互い励ましあって実践につとめてまいりたい」
ついで「ごろうさん賞」の表彰にうつり、この運動に率先垂範、人の模範となり、日常生活のなかで陰徳を積んでいる別項の個人二十人と八団体に鎌田市長がそれぞれの功績を表彰者に紹介しながら表彰状と記念品を贈りました。受賞者名は第二面へ
坂本市議会副議長が「大会が盛大に開かれ心からお祝い申し上げます。この運動の精神をみなさん方のご家庭に持ち帰って家庭の一つのルールとしていただき、心豊かな奈良市の建設のためこそご協力いただき、この運動が将来のためますます盛大になることを祈念します」とお祝いを述べました。

さんま出演に
ムード高まる
このあと、会場のふんわりとしたムードは、会場内を駆け巡る若手タレント明石家さんまがまず登場。「市長さん今日は」のテーマで鎌田市長にインタビュー。笑いとユーモアのやりとりで場内をわかせました。
ついで佐保地区自治連合会の人々による実践デモンストレーション「佐保川の歴史をかえりみて」の団体演技、青色のさらし布を佐保川に見立て、そこへ野点などとり入れ趣向をこらした演出でした。ついで二名中学校吹奏楽部のマーチ演奏、富雄南

地区自治連合会はこのデモンストレーションのために創作した踊りを取り入れた「早寝早起き音頭」を披露。
ついでOSK日本歌劇学校生徒による「翔んでるOSKシンガー(早寝早起きごろうさん)」が、若さいっぱいダイナミックに演じられ会場を魅了しました。
このあと、ゲスト出演の明石家さんまが恩師や同級生と久しぶりの対面の一幕があり、つづいておなじみの野球選手の「形態模写」などで再び場内をわかせました。
ファイナレはおなじみの地婦連の婦人たちによる「みんなであつて踊ってごろうさん」、ゆかた姿の婦人百人が「ごろうさん音頭」をフロアいっぱい踊りました。
こうしてことしの推進大会は盛況のうちに幕を閉じ、三十万市民とともにこの運動を強力に実践する決意を新たに、健康と友情と奉仕の心と真に幸せの満ちあふれたまちづくりの実現に向かって努力することを誓いました。

豪州産食肉
即売に人気
一方場外ではことしも奈良市の農産物特産品即売会や姉妹都市小浜市の特産品即売会、花の市、苗木・植木・盆栽の即売会が開かれ、いずれも用意した品物すべてが売り切れる盛況。
また奈良市と親善の深いオーストラリア・カウラ市との友好増進の一助として豪州産食肉の紹介とその消費拡大をはかるため初めて企画された「オーストラリア産牛肉即売会」も開かれ好評を呼んでいました。

6月22日投票

衆議院議員選挙 参議院議員選挙 最高裁判官国民審査

第三十六回衆議院議員総選挙
第三十二回参議院議員通常
選挙ならびに最高裁判所裁判
官国民審査の投票が六月二十
二日(日)に行われます。

わしい私たちの代表者を選ぶ
きわめて重要な選挙です。わ
れわれはこの認識のもと、主
権者としての誇りと責任をも
って大切な一票を自主的に投
票しましょう。

投票できる人
昭和五十五年
六月二十三日ま
でに生まれた日
本国民で、五十
五年二月二十八

奈良市へ転入した人 昭和
五十五年二月二十九日以後に
奈良市へ転入した人は、元の
住所地で投票してもらいま
す。また同日以後奈良市
市から転出した人は奈良市の
元の住所地で投票できます。

選挙公報を讀もう 衆議院
議員候補者と参議院議員候補
者(地方区・全国区)と今回
審査される最高裁判所裁判官
について、それぞれ写真や経
歴とか政見などを掲載した選
挙公報が発行されます。全世

院議員は午後七時半から。
不在者投票 投票日に仕事
などで投票所へ行けない人は
参議院は五月三十日から、衆
議院は六月一日から、最高裁
判所裁判官国民審査は六月十
二日から、いずれも六月二十
一日まで不在者投票ができます。

浄で豊かな水づくりの目的達
成のためダム建設推進への対
策に力を入れています。
この布目ダムから市は水道
の新規取得水源として日量七
万六千リットルを使用することが決
定されています。

現在市が持っている水源と
この布目水源を合わせて日量
二十三万二千リットルの水源とな
り、給水人口で三十五万人ま
でを十分にまかなうことがで
きます。

昭和五十五年十月に開設し
た「みどりの診療所」では
、中国のハリ・キウによ
って脳性マヒなど難病者を治
療し、多大の効果をあげてき
ました。市ではこの希望の灯
を、眼の障害に苦しむ人た
ちにも点じようと、同診療所の
武藤達吉所長(56歳)が本場
の術を修得するため五月三
十一日再び中国へ派遣しまし
た。

武藤医師は六月二十四日ま
として実施しています。
この事業には四十四億七千
万円余りの資金が使われま
す。主な施設としては、布目
ダムによる水源増に伴う緑ヶ
丘浄水場の急速ろ過池や浄
水池の築造、排水処理設備、
沈下池の増強など一連の浄
水施設を拡張して、現在の日
量七万六千リットルを十五万リ
ットルまで増強します。
また市内各地に配水池二池
を築造するほか、二カ所の既
設配水池を拡張して給水に万
全を期します。
そのほか、既設の布目取水

国政とくらしをつなぐ一票

日までに奈良市
に住居登録し
住んでいる人。
市内で住所が
変わった人

昭和五十五年
五月十五日以後
午前七時から午後六時まで。
投票開始と終了時刻には市内
数カ所で行分間サイレンを吹
鳴。

投票時間 六月二十二日の
午前七時から午後六時まで。
投票開始と終了時刻には市内
数カ所で行分間サイレンを吹
鳴。

投票場所 市役所二階で手続きし
て下さい。また病院や老人
ホームなど指定された施設で
は、その施設で投票できます
ので施設の管理者に申し出て
ください。

立会演説会
六月十一日(木) 奈良県
文化会館(登大路町)
六月十八日(水) 市西部
公民館(学園北二丁目)
両会場とも参議院地方区選
出議員は午後六時から、衆議
院議員は午後七時半から。

**57年度までに
第五期拡張を**
奈良市は近隣大都市のベッ
ドタウン化が進み、全国でも
有数の人口増加都市となつて
います。その結果、水の使用
量も幾何級数的に増加したた
め、相ついで大規模な水道施
設の建設を重ねてきました。

現在布目ダム建設により完
了した第四期拡張事業によつ
て給水人口三十万人に供給で
きる能力をもつていますが、
今後人口増加の傾向は続く
ものと思われ、将来は現在の
供給能力を上回る水の使用量
増が予測されるため、布目ダ
ムを水源とした第五期拡張事
業を昭和五十二年頃から五十
七年度までの六カ年継続事業

として実施しています。
この事業には四十四億七千
万円余りの資金が使われま
す。主な施設としては、布目
ダムによる水源増に伴う緑ヶ
丘浄水場の急速ろ過池や浄
水池の築造、排水処理設備、
沈下池の増強など一連の浄
水施設を拡張して、現在の日
量七万六千リットルを十五万リ
ットルまで増強します。
また市内各地に配水池二池
を築造するほか、二カ所の既
設配水池を拡張して給水に万
全を期します。
そのほか、既設の布目取水



布目ダム建設に向けて

市が進める「新平城京のまちづくり」に基づく水道事業の基本方針を「新平城京の水道計画」と定め、奈良市水道百年の計をたて、豊かで清潔な水づくりを目指し事業を進めています。ことし二二回目の水道週間(六月一日〜七日)にちなんで、現在市が最も努力を傾注している布目ダム建設事業の推進や第五期拡張事業の現状と将来を知っていただき、限りある資源としての水の大切さを今一度かみしめて、水を大切に使う工夫をともに考えてみたいと思います。

35万人給水確保へ

早期完成を鋭意推進

市の過去十年間の人口増加
は毎年約八千人以上に及んで
います。今後も同様な増加八千
〜一万人程度が増えていくも

のと思われます。それに伴っ
て水の使用量も必然的に増大
し、現有水源だけでは間もな
く水源不足を来すと予測さ
れ、市では将来水源を確保す
るため布目ダムの建設推進に

全力投球しています。
布目ダム建設については、
昭和五十年から実施計画調
査費が政府予算に計上され、
本格的なダム予定地の地質調
査や測量が行われました。こ
の技術的な調査もほとんど終
了し、引き続き水没地区や
ダム本体の建設用地など土
地、家屋、立竹木などの補償
調査が実施されます。

そのほか水没道路のつけ替
え路線や工事用道路の路線測
定など、布目ダム建設の準備
作業は多岐にわたります。

地元へ感謝、建設後の の対策にも配慮を

布目ダム建設のような大事
業は、多額の資金と歳月を必
要とするため、とても一つの
市が単独で進めるのは無理なこ
とで、国の政策で建設しても
らわないと実現不可能です
が、これに加えてもう一つ大
切なことはダム建設地の地元
みなさんの理解と協力で、こ
れがあつてはじめて可能なこ
とを忘れてはなりません。

多くの土地(田畑・山林)や
家屋その他個人の財産が水没
したり、ダム用地として使わ
れますが、布目ダムでも奈良
市、山添村両地域にわたって
土地や家屋が水没したり、事
業用地として使われます。

これは地元の人々にとつて
は、祖先伝来の土地や家屋、
その他の財産を喪失すること
になり、またダム周辺地域の
環境の変化、ダム下流への影
響など直接、間接にダムの影
響を大きく受けることになり
ますが、これに対して地元の
人々が、ダムの犠牲になつ
た、という気持ちを持たないよ
うに、国をはじめ水資源開発
公団、県、市など関係機関が
地元の人々の立場に立つて
処理し、さらにはダム建設後
に地元が発展していくような
対策を講じていくことが必要
です。また水を使う側の市民
もこのように苦労して出来た
水というものを考えて大切に
使っていただくことが、水源
地の人々に対する恩返しであ
るといえます。

限りある資源 水を大切に

直接川や
井戸から水
を汲み上
げ、人力で
運んでいた
昔と違つ
て、水道が
出来てから
は蛇口をひ
ねればいつ
でも必要な
だけ安心して
飲める水が使
えるようにな
りましたが、こ
の一滴一滴が大変な費用と多
くの人の努力によつて造ら
れ、送られてく
るというこ
とを今一度よくかみしめてい
ただき、大切に
使ってください
よう願っています。

とくに、最近
は水源として
開発できると
ころはほとんど
枯渇し尽くさ
れていて、地
形的にも制約
されているた
め、ダムを建
設して新しく
水源を開発す
るなどは非常
に困難になり
てきています。
そのため、水
も限りある資
源のひとつと
して大切に使
うことが全
体的に提唱さ
れていますが
、私たちの日
常生活の中
でもひと工夫
すればまだま
だ有効に水
を使える場合
がたくさんあ
ります。

例えば風呂の残り湯を洗
たく、掃除、まき水などに再
利用することや洗車はホース
で流すのではなくバケツに
水をためて洗う、五分の一
が六分の一ぐらいで済みます
。もう一度身近なところ
で点検してみれば、まだま
だ水のムダづかいが見え
るでしょう。

市でも市民みなさんに水の
有効利用をお願いするだけ
ではなく、配水管からムダな
水もれがないか毎年計画的に
水調査を行っています。す
でに今日まで第一次計画とし
て延長三千四百五十キロの
調査を終え、水もれ七千カ所
を発見、修理しました。

続いて今年度から第二次計
画の初年度として十八万二
千キロの調査を予定してい
ますが、このように今後もい
っそう市と市民のみなさんと
手を携えて貴重な水を大切
に使うための施策を実施し
ていきます。

